

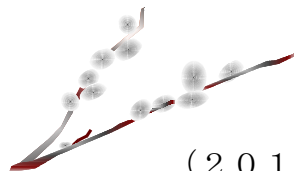
## 説教要旨 「差し迫る神の国」

ルカによる福音書9章57～62節

キリスト者は、イエス・キリストに従う者です。しかし、その歩みにはここでイエス様が示されているような厳しさが伴います。父を葬りに行くとか、家族にいとまごいに行くというのは、大抵のことよりも優先されるべきだと誰でも思うことでしょう。わたしたちはこの世を生きる者として、この社会の一員として、いろいろな責任を負っている者として、“優先しないといけないこと”を他にもたくさんかかえています。そういう現実の中で私たちは、イエス様に従おうと思いつつも、いつしかそれを二の次三の次にしてしまうことが起こってきます。ここで語られているイエス様の厳しい言葉は、そのような私たちに、何をおいても優先すべきことがあることを、イエス様に従って歩むことはどういうことなのかを示しています。

神の国は、今やイエス・キリストが天に上げられたことによって実現しました。もはや私たちを支配しているのは死の力ではありません。死の力を打ち破り、イエス様を復活させて下さった神様は、今や私たちを、この世界を、支配して下さっている。それが神の国の福音であり、イエス様に従うことは、この神の国を言い広めることなのです。「あなたは行って、神の国を言い広めなさい」(60節)、イエス様に呼びかけられた人たちがどのように応えたのか、この後どのように歩んだのか。それは聖書に記されておられません。なぜなら、それはあまり重要なことではないからです。大切なことは、今同じように呼びかけられ、招かれている私たちが、イエス様にどう応え、どう歩むのか、なのではないでしょうか。私たちはいま、この物語の続きを生きているのです。

この世の現実を生きる者として、イエス様に従おうと思いつつも、いつしかそれを二の次三の次にしてしまう私たちです。このイエス様の受難を思うこのレントの時、私たちはこの自らの弱さをしっかりと見つめつつ、どのような場に置かれていても、神の国の福音を、イエス・キリストの十字架を人々に告げ知らせるために、神様が用いてくださるよう、共に祈りを合わせましょう。



(2019・3・17 説教者：稲垣真実)